

名古屋大学学生諸君、総長の杉山です。

博士課程進学は経済的に負担が大きい、
と感じて進学を迷っている、諦めている
君に朗報 !!!!!!!!

博士課程へ進学
経済的支援が充実

名古屋大学では、
する学生向けの
しています。

どんなサポート
か詳しい情報
次頁を見てく
総長の私をは
が丸となっ
に進学する学生
ます!!!!!!!!!!!!!!!

を受けられる
については、
ださい~。
じめ、大学
て博士課程
を応援し
!!!!!!!!!!!!!!!

博士課程

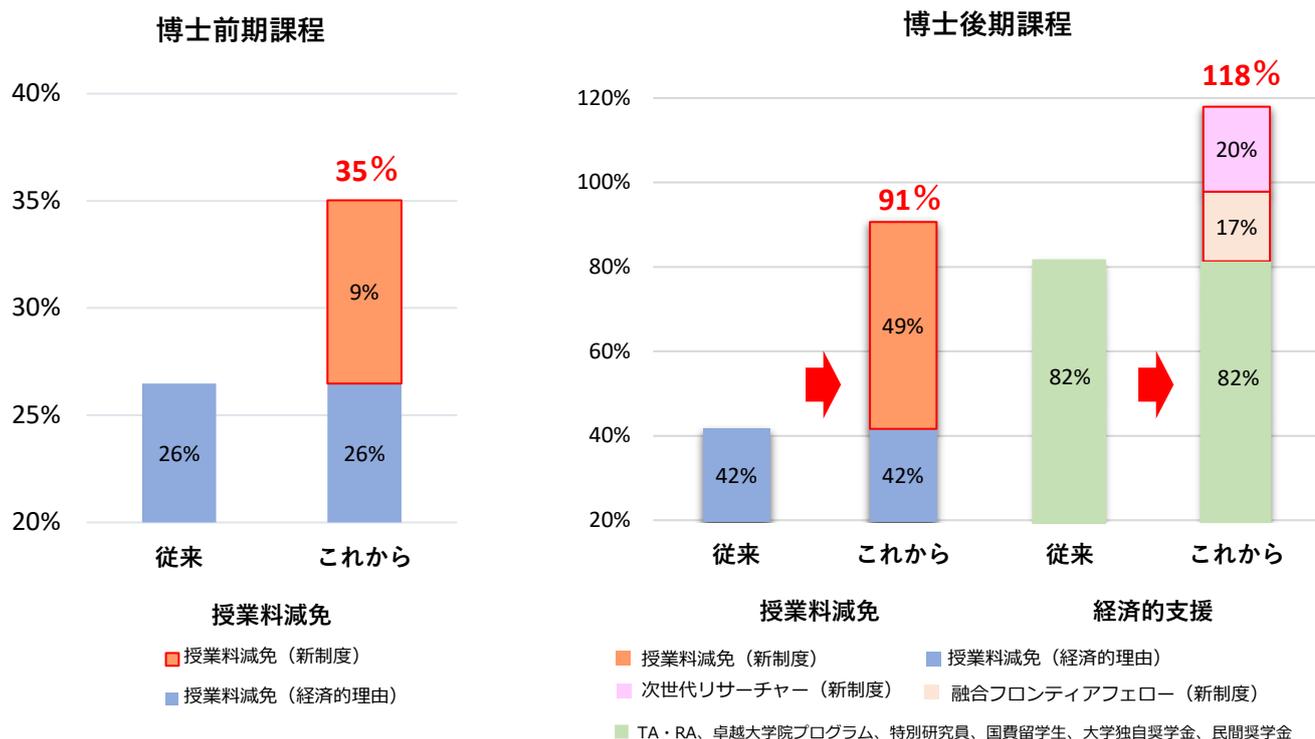
に進学しよう!

博士課程学生への経済的支援概要

- ▶ イノベーションを創出し、世界的な社会課題を解決に導く原動力となる博士人材の育成を目的として、**博士課程に進学する学生を全力支援！**
- ▶ 国の施策に、**名古屋大学の独自支援**（約3億円）を加えて、**授業料減免や生活費相当額の経済的支援を強化！**

<支援可能人数>

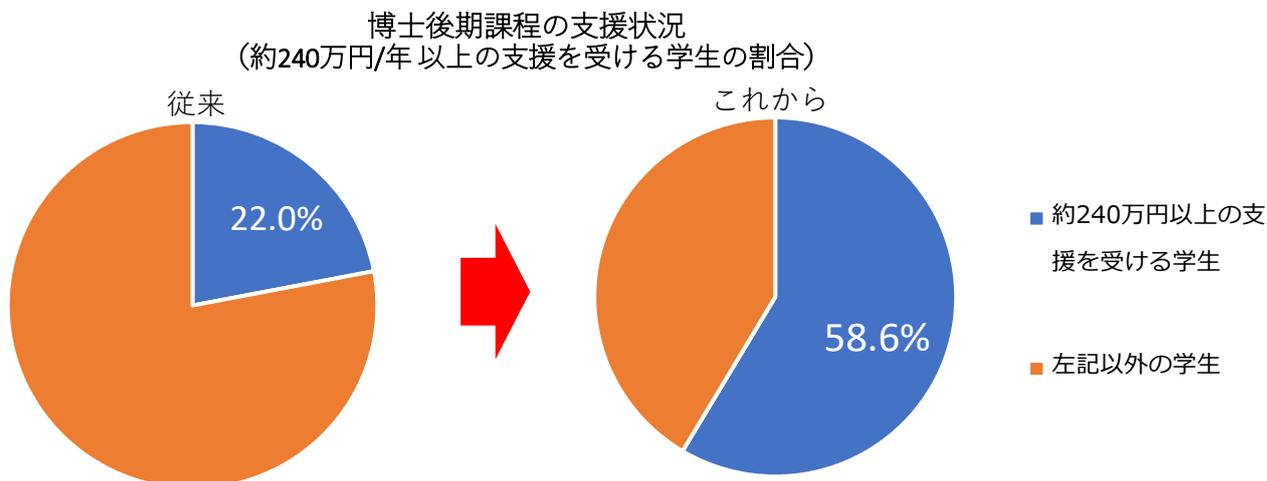
博士前期課程約3800名、博士後期課程約2300名の学生のうち、社会人学生・休学者を除いた前期課程約3600名、後期課程約1400名に対して、新制度の創設により、前期課程では35%の学生が授業料減免対象になり、後期課程では、91%の学生が授業料減免、118%の学生が経済的支援（重複有り）の対象になり、**経済的支援を希望する学生に幅広い支援**を実施します。



<支援金額>

博士後期課程では、授業料減免も含めて、学生1人当たり**約173万円/年※**の支援を行います。なお、生活費を十分に賄える金額は、一般的には約240万円/年以上が目安とされていますが、**博士後期課程学生の半数程度がその支援対象**になります。

※令和3年度支援実績、令和4年度以降の予算、及び令和4年5月現在の学生数（社会人学生及び休学者除く）より計算



- **博士前期課程から後期課程を通じて、経済的支援を希望する学生に幅広い支援**
- **博士後期課程は、授業負担減を含む充実した経済的支援を実現**

支援プログラム

<博士課程における経済的支援制度>

博士課程においては学内外を問わず、学年に応じて様々な支援制度が整備されています。

支援制度	博士前期課程		博士後期課程		
	M1	M2	D1	D2	D3
1 授業料減免 <small>(教育プログラム等 下記 2,4,5 対象)</small> <small>(経済的理由)</small>	※プログラムにより異なる		令和4年度新規		
2 融合フロンティアフェロー 次世代リサーチャー			令和3年度新規		
3 TA・RA/QTA・GSI	※制度により異なる				
4 卓越大学院プログラム					
5 特別研究員 (DC1) (DC2)					
6 その他奨学金	※制度により異なる				

1 授業料減免制度【博士前期・後期】

●プログラム等履修による減免

特定のプログラム等の履修者、内定者に授業料の減免を行います。

新規

減免対象者	M1	M2 (医学系D1)	D1 (医学系D2)	D2 (医学系D3)	D3 (医学系D4)
特別研究員採用者	—	—	全額免除	全額免除	全額免除
卓越プログラム学生	全額免除	全額免除	半額免除	半額免除	半額免除
フロンティアフェロー 次世代リサーチャー	—	半額免除	一部免除 (半額未満)	一部免除 (半額未満)	一部免除 (半額未満)

●経済的な理由による減免

学業優秀で、経済的に困窮している世帯の学生に対して授業料の減免を行う制度です。

各期で授業料減免を行っています。令和4年度より博士前期課程、後期課程それぞれの支援規模を拡充します。

2 名古屋大学融合フロンティアフェローシップ(融合フロンティアフェロー)

【博士後期】

東海国立大学機構融合フロンティア次世代研究事業(融合フロンティア次世代リサーチャー)

新規

博士後期課程学生が、学位取得後に社会の多様な場で活躍することを目的として、優秀で志のある学生に対し、標準修業年限中の経済的支援とともに様々なスキルを涵養するプログラムです。

融合フロンティアフェロー		融合フロンティア次世代リサーチャー	
経済支援	研究専念支援金18万円/月	※評価によって増額する場合があります	
研究支援	研究費25万円/年		

3 大学での短期雇用【博士前期・後期】

●TA・RA

各研究科において学部の講義や実習を支援すること（ティーチングアシスタント：TA）や各研究室において学部生などの後輩の研究の指導や、教員が行う共同研究に参画すること（リサーチアシスタント：RA）を目的に雇用して給与を支払う制度があります。

●QTA・GSI

専門性及び教授法を身につけた特に優秀な大学院生を対象に、教育の提供者の一員として位置付けTAよりも高度な授業支援業務を行うために雇用する制度（Qualified Teaching Assistant：QTA）や、教員に近い裁量と責任を負う者として位置付け授業の大部分を担当するために雇用する制度（Graduate Student Instructor：GSI）があります。

4 卓越大学院プログラム【博士前期・後期】

卓越大学院プログラムは、文部科学省が平成30年（2018年）に開始した5年一貫の博士課程プログラムです。名古屋大学では**全国最多の4つのプログラムを実施**しています。

博士課程学生が研究と多様な能力の開発に打ち込めるよう、特別な経済的支援が用意され、さらに、TAやRAを通して指導能力を学び、追加の収入が得られるような仕組みが用意されています。

	プログラム名	経済支援
DII	未来エレクトロニクス創成加速DII協働大学院プログラム	1-2年次(博士前期): 10万円/月, 3-5年次(博士後期): 20万円/月
GTR	トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラム	RA支援(博士前後期): 8.3万円/月程度 派遣支援(国際学会への参加: 1回、国内外での研究: 上限150万円) 授業料減免(博士後期課程の特に優れた学生) 133,950 円/年
CIBoG	情報・生命医科学コンポーネーショングローバルアライアンス卓越大学院プログラム	1-2年次(博士前期): 8.5万円/月, 3-5年次(博士後期): 15万円/月 その他に海外旅費助成や英語学習支援などあり
TMI	ライフスタイル革命のための超学際移動イノベーション人材養成学位プログラム	1-2年次(博士前期): 8万円/月程度(雇用), 3-5年次(博士後期): 18万円/月 国際学会への参加や海外留学のための旅費などを支援

5 日本学術振興会特別研究員【博士後期】

我が国の大学院博士課程在学者で、優れた研究能力を有し、研究に専念することを希望する者を「特別研究員(DC)」として採用し、研究奨励金(月額20万円)を支給します。博士後期課程修了後は、申請・審査を経て「特別研究員(PD)」の道も開かれています。本制度は独立行政法人日本学術振興会により運営・実施されています。

(独)日本学術振興会特別研究員(DC1・DC2)

経済支援	研究奨励金20万円/月	
研究支援	研究費 最大100万円/年（実験系） 最大60万円/年（非実験系）	※「特別枠」の場合は最大150万円

6 その他の奨学金

<名古屋大学独自>

●名古屋大学下駄の鼻緒奨学金【博士前期・後期】

学部又は大学院の最終年度の学生を対象に毎年4名程度、年間60万円を給付

●名古屋大学ホシザキ奨学金【博士前期】

工学部又は工学研究科等の学生を対象に毎年20名程度（うち博士前期課程は10名程度）年間144万円（2年間）を給付

●名古屋大学特定基金 エンカレッジメント奨学金【制度により異なる】

年間50万円を給付（対象は制度により異なる）

<名古屋大学外>

●日本学生支援機構の奨学金【博士前期・後期】

日本学生支援機構による奨学金制度（貸与）です。また、貸与期間中に特に優れた業績を挙げた者として日本学生支援機構が認定した人は、その奨学金の全額または半額を返還免除される制度があります。

**上記のほか、留学生への奨学金、留学支援奨学金や財団の奨学金など
様々な奨学金を受給する機会があります。**